

日吉台新聞

HIYOSHIDAI
平成30年2月1日

発行

日吉台学区自治連合会
日吉台学区まちづくり協議会
発行責任者 林 堅太郎
編集責任者 村澤 真保呂

題字は

4丁目11-2

梶谷 清苑さん

日吉台学区
個人情報保護方針
取り扱い文書

市民センター改革のポイント提案

学区自治連

窓口業務は、坂本市民センターへ

学区自治連合会は、大津市が計画している市民センター改革について、市が公表した「市民センター機能の在り方について」と「公民館自主運営モデル事業の概要について」の資料や昨年未開催された説明会などを基に、市の改革案のポイントや問題点、日吉台住民への影響などを資料にまとめ、公表した。

市民センターの柱は、現在の日吉台市民センターなど市内各学区の多くの市民センターをコミュニティセンター化、市民センターが持つ支所、公民館、地域自治、防災の4

機能再編、施設再編するもの。2025年度完了を目標に順次再編スケジュールを立案している。公民館はこの改革案の先駆けとなるもので、最終的には地域の自主運営を目指している。運営が自主運営になっても市の公共施設であり、市の施設使用にかかる制限がなくなるのか説明はないが、講座運営など市の指示に

基づいて実施しなければならぬ業務や事業が残ると住民負担は大きい。モデル事業期間中、地域で雇用された事務員が戸籍など保秘義務が課せられるセンター事務室に立

ち入れるか、地域雇用事務員の雇用は、市の偽装請負にならないのか、などさまざまな疑問点も浮上している。支所機能の統廃合では、市は住民票や印鑑登録、発行など窓口業務はコンビニ発行など代替策を検討するとしているが、日吉台にそのコンビニがなく隣接する坂本支所に出向くにも高齢者が多い住民の足の問題も心配だ。これらの計画についてはまだ案の段階。市内各学区の反応もさまざま



日吉台幼稚園で行われる説明会

大津市の幼児政策課は22日、日吉台幼稚園で開いた同園保護者、入園予定者らに対する説明会で、同課の山内和夫課長は「4月以降、日吉台幼稚園児は、坂本幼稚園で同園児と合同保育となる」と述べ、日吉台幼稚園の事実上の廃園方針を明らかにした。大津市は、日吉台幼稚園に換え、民間の認定こ

ども園の設置を計画、設置事業者の公募を行ったが、名乗りを挙げる事業者がなかったため今後の対応を保護者や住民に説明するため開催した。市側は、今後について、2月中旬を目処に公募条件を見直し、再度、認定こども園事業者公募を行うことを明らかにした。これらで坂本幼稚園と交流保育などを実施しており合同保育に適している」と合同保育の理由を説明、保護者らに理解を求めた。坂本幼稚園への通園は、市が通園バスを運行、日吉台学区内の父母らが希望する箇所から送迎することになる。

偽装請負の可能性指摘の声

公民館モデル事業、事務員地域雇用

大津市が計画する公民館自主運営モデル事業について、野々口義信学区自治連合会長は学区自治連1月定例会で、市役所

で開かれた年末26日のモデル事業説明会の報告を行い「市が考える学区内で組織する公民館運営団体が行う事務員の雇用は、違法反の偽装請負の可能性を指摘する声がある」と説明、学区として当面モデル事業には、参加しない方針を明らかにし、

法違反の偽装請負の可能性を指摘する声がある」と説明、学区として当面モデル事業には、参加しない方針を明らかにし、

学区自治連定例会もこの方針を了承した。公民館自主運営モデル事業は、市民センター機能改革案のひとつ。他の改革案に先駆け29年度事業で実施するもので、学区内の各種団体に公民館運営委員会(仮称)を組織してもらい、地域で事務員を雇用する。この事務員は、週2回程度公民館に出向き、現在の公民館長から貸借業務、施設管理、利用者団体管理、講座開設、公民館運営マニュアル、施設備品管理、防災関係業務などを学んでもらうという。

モデル事業の29年度から31年度までの期間中、市は、公民館運営委員会に委託料1カ月6万4152円(税込み)を支出、事務員の給与は公民館運営委員会が支払うことに

なる。市のモデル事業説明会は、事業に参加を希望する学区や説明を聞くとした学区の自治連合会長、役員らが出席した。説明会で、モデル期間中の市、公民館運営委員会、雇用事務員の三者間の職務上の指揮命令関係の問題点や、モデル期間中、機密保持が不可欠な支所業務を行う事務室に市職員でない事務員が立ち入れるのかなど数々の疑問点が指摘された。

職務上の指揮命令関係の問題について、現行法上、市が公民館運営委員会に委託料を支払い、同委が事務員を雇用する場合は、業務の指揮命令ができるのは雇用主の公民館運営委員会。現場で働く事務員が、市職員の公民館長、生涯学習専門員か

ら職務上の指示や命令を受ける「偽装請負」とみなされ、労働者派遣法、職業安定法第44条の労働者供給事業の禁止に抵触する恐れがあるという。また説明会では、モデル事業の住民説明会を求める意見も出たが、市は「考えていない」と述べ

大津市の空家対策推進室に入った連絡によると、石川県かほく市の市町会区町会連合会の自治会視察研修の一行が5月24日、日吉台学区を訪問、空き家対策をまちづくりの一環として捉えた学区活動について視察、研修する。日吉台学区のホームページに日吉台学区が取り組む空き家対策事業が掲載されており、ホームページで知ったかほく市の担

年度	何が起こるか	私たちに影響
平成20～24年度 2017～2019年度	◎現在と同じ状態が維持される ◎モデル事業実施学区では公民館運営の地域移行が試行される	◎モデル事業に抵触した場合は、平成22年度～24年度に組織を立ち上げ、大津市と契約して公民館運営の地域移行を試行する
平成25～29年度 2020～2022年度	◎現在と同じ状態が維持される ◎日吉台市民センターから支所機能が廃止され、日吉台コミュニティセンターとなる。(市職員のコミュニティセンター長1名が配置される) ◎公民館、防災、地域自治機能は市職員がコミュニティセンター長と地域で立ち上げた公民館運営組織、新たに結成された地域自治組織が運営、事務員は地域が雇用した事務員	◎行政に変わる手続きは原本支所か、市役所本庁に出向く ◎地域で公民館運営を受託する組織を新たに立ち上げ、大津市と公民館運営に関する受託契約を締結する ◎同組織は、実際の運営業務に従事する事務員を採用、雇用しこの事務員に適切な指示を与え公民館維持管理業務を担う、実施される
平成30年度以降 2023年度以降	◎日吉台市民センターには、市職員は、すべて引き揚げられない ◎日吉台市民センターには、市職員は、すべて引き揚げられない	◎地域が立ち上げたコミュニティセンター運営組織が、大津市と受託契約し、公民館、自治組織、防災業務など市民センター業務は、地域の自主運営に完全移行となる



が、反対意向を打ち出す学区も数多い。市が描く計画案どおり、スケジューリングどおり進行できるかはまだ不透明。学区ではこのまともについて、学区ホームページにも掲載、住民の幅広い意見、議論を期待している。

が、反対意向を打ち出す学区も数多い。市が描く計画案どおり、スケジューリングどおり進行できるかはまだ不透明。学区ではこのまともについて、学区ホームページにも掲載、住民の幅広い意見、議論を期待している。

日吉台のまちづくり活動を視察

石川・かほく市の視察研修一行

大津市の空家対策推進室に入った連絡によると、石川県かほく市の市町会区町会連合会の自治会視察研修の一行が5月24日、日吉台学区を訪問、空き家対策をまちづくりの一環として捉えた学区活動について視察、研修する。日吉台学区のホームページに日吉台学区が取り組む空き家対策事業が掲載されており、ホームページで知ったかほく市の担

者が、大津市の空家対策推進室に連絡、視察研修の運びとなった。一行は、油野和一郎市長をはじめ同市の町会長、区長、市職員総勢45人。バスで日吉台を訪問、日吉台市民センターで、日吉台学区で取り組む空き家対策の事業内容、事業の経緯、苦労話、成果などについて研修する。石川県かほく市は、能登半島西部のつけ根、金沢市の北約20キロ、県のほぼ中央に位置。人口約3万5000人、世帯数約1万1000世帯で高齢化率は約24.4%。平成16年に高松町、宇ノ気町、七塚町が合併し現在のかほく市となる。世界的な哲学者、西田幾多郎博士の出生地として知られる。

日吉台学区の新春風物詩

どんど焼き、もちつき大会



燃え上がるどんど

新春の1月6、7の両日、日吉台小学校で「もちつき大会」と「どんど焼き」が開かれた。どんどこ焼きたちは、開始時の青空から曇り空に変わった。風もなく寒さもあり感じることのない穏やかな日となり、正月飾りなど多くの住民が顔をみせた。日吉大社の神官によるお祓いのあと、青少年育成学区民会議の角田豊会長が校庭に木材を組んだやぐらに点火、大きな炎となり、参加者らが次々と正月飾りやお正月の書初めなどを火のなかに入れ、天高く立ち上る炎に

どんど・立ち上る炎に子ら歓声



残り火でおもちを焼く参加者

歓声を上げ、無病息災と地域の安全を祈っていた。火が収まったあと子どもたちは、長い竹の棒に巻かれた餅を残り火であぶって砂糖醤油をつけて食べ、ふるまわれた豚汁に舌鼓をうっていた。もちつき大会は、どんどこ焼き前日に小学校の庭であり、220人が参加。みんなでおもちをついたあと、きなこもちとぜんざいを完食した。この「もちつき大会」と「どんどこ焼き」は、伝統行事の良さを日吉台の子どもたちに伝えるため、日吉台・未来事業推進委員会が、平成19年から始め、日吉台の新春の風物詩として定着している。



イノシシ捕獲の檻設置

イノシシ被害防止を願って日吉台で家庭菜園を楽しむ住民グループと日吉台自主防災会有志が1月中旬、大津市千野3丁目山林にイノシシ捕獲檻を設置した。



イノシシ捕獲の檻を設置する住民

目は、日吉台学区と隣接、多くの住民が畑を借りて家庭菜園を楽しんでいる。付近では5年ほど前からイノシシが出没していたが、昨年9月ごろからイノシシ被害が拡大

からイノシシ被害が拡大、被害防止用の電気柵のなかに入り込み暴れ放題。収穫前の作物を台無しにしていた。このため、地元猟友会の会員や家庭菜園の仲間、同自主防災会有志らが、千野3丁目地主の協力を得て檻を設置することになり、出没しやすい山林に鉄製の檻を据え付けた。作業を終えた住民らは「この檻の設置で千野や日吉台住民がイノシシ被害から守れることを願う」と話していた。

ハープとフルートの音にうっとり 第2回日吉台コンサート

日吉台コンサート実行委員会主催、日吉台学区まちづくり協議会後援の「第2回日吉台コンサート」が、12月24日、日吉台市民センターで開催、

生演奏に接する機会が少ない日吉台住民を魅了させた。出演は、京響の楽団員であるフルート市川智子さん、ハープの松村衣里のデュオ演奏。200人余りの聴衆を前に、クリスマスイブにちなんでパッサールの「アヴェマリア」の厳粛な雰囲気が始まり、ピゼーの「アルルの女」よりメヌエットなどの演奏が続いた。演奏の合間に市川、松村さんが、フルートとハープの歴史と楽器



日吉台市民センターで行われるコンサート

